

人生の暗号 ～あなたを変えるシグナルがある～ サンマーク出版

村上 和雄 筑波大学教授 遺伝子研究に取り組み1983年高血圧の黒幕である酵素「レニン」の遺伝子解読に成功、世界的な業績として注目される。

(プロローグ)

人と人、人と出来事、人と物は一見バラバラのようでありながら相互に関連性を持っている、それが人生の暗号だと私は考えています。

私の経験では自分から良い出会いを求める気持ちが大切だと思います。どんな思いもそれを外に伝える前に、先ず自分が強く持てば必ず相手に伝わるものなのです。

* 運の良し悪しも遺伝子の働きか？

今から30数年前偶然米国留学の機会に恵まれ研究さえできれば「一生ヒラの研究員でいい」と思っていたが待遇が凄くよくなりバンダビルト大学でスタンレー・コーエン教授(後にノーベル賞受賞)という、かなり年配で鳴かず飛ばず・一風変わった学者から「自分の仕事を手伝ってくれないか」と云われた、1年間の共同研究も全く徒労だったが、この研究のお陰で「レニン」という酵素に出会った。

～後に世界に先駆けてヒト・レニン遺伝子の暗号解読に成功した。

人が良い出会いをする事・自分の能力を大いに発揮する事・自分の望みを叶える事・幸せな人生を生きる事これら全て遺伝子の働きと繋がっていると考えられる。

人には成人で約60兆個の細胞がありその一つ一つの細胞の中に30億個の遺伝子があり遺伝子一つ一つの細胞の中には本にすると千ページの本が千冊も必要な情報量が格納されている。

～その全遺伝子情報の内、実際に働いているのは5～10%程度と考えられている。

* 良い遺伝子を目覚めさせる方法

末期がンを宣告された人がモンブラン登頂に挑戦したら免疫力が上昇した例が・・・又がん患者に落語を聞かせ大いに笑わせた後で免疫力を測定したら上がっていた等好ましい心の状態に置かれると病気は改善に向かうことはほぼ間違いないことだと云われています。深い悲しみ・過酷なスポーツの訓練とか厳寒期の滝行のような肉体の酷使もある段階を超えると遺伝子が良い方向へ働くようです。

以上のことから良い遺伝子を目覚めさせるには次のことを実行することが良い方向へ働くようです。

- ① 思い切って今の環境を変えてみる
- ② 人との出会い・機会との遭遇を大切にす
- ③ どんなときにも明るく前向きに考える
- ④ 感動する

⑤ 感謝する

⑥ 世の為人の為を考えて生きる

環境と心構えが遺伝子をコントロールする大きなカギと思っています。

地球上には2百万種類以上の生物がいて遺伝子の構造と原理は全ての生物に共通して起源を持つ驚異的なことです。問題はこの遺伝子という生命の設計図がどうして出来たか人間を超えた何か大きな存在を意識せざるを得なくなりここ数十年来その働きを「サムシング・グレート＝偉大なる何者か」と呼んでいます。

人生の岐路に直面した時に何かしら必ず暗号めいたものを受け取っていると思っています。私の体験を述べることで「その暗号をどのように感じ・どう解いていくのか」少しでも皆さんの人生のヒントになればと思っています。

{ 第一章 いい出会いで人生は決まる }

* パリの世界一流パスツール研究所が「もう8割方読み取っている」自分の研究テーマであるヒト・レニン酵素の遺伝子暗号解読の準備段階での情報が伝わってきたが結論が出たわけではなく挑戦しようと思っているときに偶然顔見知りの京都大学の中西重忠教授(遺伝子工学で世界的に知られた方)から「勝負はまだ分らんよ8割方読んだその先がすごく大変なのだ」と、更に支援していただき一気に遅れを取り戻しパスツール研究所に勝った。

* 一流になりたいなら一流のそばに行け

私が最初の米国留学で驚いたことは若い大学院生がノーベル賞受賞の著名な学者に気楽に話しかけ熱心に討論しかもほとんど初対面なのに・・・日本の留学生にない物おじしない開放的、又立派な先生も偉ぶらず気さくに対等な立場で対応。私の約10年の海外体験からのポイントは

① 話すほうは片言でもヒヤリングだけは習熟しておくこと

② マナではだれでも同じ人間として接すること～掃除する黒人に普通に挨拶する程度なのに非常に親切にされた～理由を聞くと「貴方は差別しない」と。

* 初対面でも以心伝心の奇跡は起こる

経済同友会から「バイオの話をして」と云われ講演の後で初対面の社長が一席設けて下さったとき「今一番何が欲しいと思われませんか」と問われ「お金です」に先方はチョット驚いた様子「自分の為でなく研究費が文部省からの支給が少なく学生30人で研究室は30百万円かかり9割方と大きな赤字であると率直に現状を話した」身銭を切っていてこのままだと自己破産の状態だった。

すると「年間1億円5年間で5億円出しましょう」と云われビックリした、但し一つ気になる事があり「価値あることにお金を使う約束はできますが何の見返りも出せなくてよろしいのですか？」と「勿論それで結構です」と。

一回きりの出会いでこのようなことが起きたのは

正しい目的で必死に努力していれば天は味方してくれると。

* 遺伝子を超えたことは人間の身に起きない

細胞の中の遺伝子はたった1個で人間を作り出すだけの潜在能力なのに働いているのは極一部で他は眠っている。

火事場になると、か弱い女性でも重い荷物を持ち上げて外に持ち出すことが出来るのは普段オフの遺伝子がオンになったと解釈できます。

* 「想い」を明確に相手に伝えることも大切

前述の京大中西教授の協力を得て帰国早々に東北大学から人の腎臓摘出手術があり取りにいらっしやいと・更なる幸運は10倍もの豊富なレニンが含まれていた。

この幸運は研究室に来ていた医者の方が方々の病院で話をつけてくれたおかげでした。大切なことは人に伝える前にまず自分の心がその想いを強く持つ、そのことで潜在意識に植え付けられて相手にしっかりと伝わる。

* 自分が信頼している人から声をかけられたら応じてみると良い出会いになるきっかけにもなる。

* 自分に確固たる目的や方向性があるなら、生き方・方法論に柔軟性があると良い結果につながることも。

{ 第2章 プロの凄さ・素人の凄さ }

世界的に有名なプロゴルファーが酷いスランプの時に素人から「打ち方を変えたのですか？」の何気ない一言がヒントで復活。

ソニーが大会社になって一時期停滞した際にオペラ歌手だった大賀典雄さんに一定の経験を積ませて社長に据え会社を立て直した。

私は今でも研究の申請書を書く時には素人の妻に読んでもらって分かりにくいところは指摘してくれます、そうした方が申請書は通り易いです。

* 思い込むことが大きな仕事をさせる

私達の研究室で「脳の中にもレニンがある」を証明するために牛の脳からレニンを取り出すことを考え、そのために3~4万頭の牛の脳下垂体が必要で「レニンには手を出すな」と云われる程厄介なことだった、しかし世界で初めての計画をやり遂げる決意を固め東京の食肉センターへ依頼に行ったが全く相手にされなかった。何度も何度もこんこんと説得に足を運び平身低頭してお願い・・・根負けの形で引き受けて頂いた結果~3、5万頭分の脳下垂体を集められて0、5ミリグラムのレニンを取り出すことに成功した。西ドイツで開かれた国際高血圧学会で成果を発表、脳にレニンの「あるなし論争」にケリをつけることが出来た。

* 伸びる人の見分け方

① 物事に熱中できる、そして持続性がある

② 寝ても覚めてもが前提で無意識のそのことを考える段階に達して

初めて前触れもなくヒラメク。

③ 常識に縛られない自由闊達さ

心理学者のマズローは人間の可能性を阻害する要因として「いたずらに安定を求める気持ち」「つらいことを避けようとする気持ち」「現実維持の気持ち」「勇気の欠如」「本能的欲求の抑制」「成長への意欲欠如」これら6つの項目は遺伝子「ON」を阻害する条件と考えられます。

* 遺伝子を「ON」に、したり「OFF」にする方法

① 物質的要因(熱・圧力・張力・訓練など)

② 食物と化学的要因(アルコール・喫煙・環境ホルモンなど)ビタミンA・D・E等は遺伝子ONに直接関与することが証明されている。

食生活を正すことは良い遺伝子を目覚めさせる上でとても大切なこと。

③ 精神的な要因(ショック・興奮・感動・愛情・喜び・恨み・信条・信仰等)できるだけ多くの感動を経験することが遺伝子「ON」に有益。

全体に良い遺伝子を目覚めさせるにはプラス思考で取り組むことが大切なポイント

{ 第3章 駄目と思った時から始まる }

* 行き詰まったら環境を変えてみる

私の弟がアフリカでエイズ差別を受けているような子供達の多い学校などを作る仕事をしている、日本では落ちこぼれで箸にも棒にもかからない子供を連れて行った、アフリカでは子供が「学校に行きたい」と泣いて頼んでも親は「行かせたいがお金がない」と泣いて詫げる、彼はそういう現実を見て自分の高価な洋服を売って、その10万円で25人が学校へ行ける程で沢山の本を配ると学校挙げて大歓迎されて彼は大変感動、自分は落ちこぼれで先生に怒られ親には生まなければよかった、と云われていたのに進んでスワヒリ語を学び勉強をガンガンやって親の方が驚いてしまったという話がある。

～遺伝子に刺激を与えるには環境を変えることが効果的という好事例～

* ノーベル医学生理学賞受賞のマックス・デルブリュックの文章では

「天分これ持たない者がいようか・才能これ単なる子供のおもちゃ、真剣さのみが人を人とし、汗のみが天才を作る」と。

* 感動した時に「労働」ではなく「仕事」をする

筑波大学には教養学部がなく手分けして新入生に講義、ある時に自分達の研究現場の話～レニンと云う酵素の遺伝子暗号解読を世界の有名な研究所と競った事。ヒトの遺伝子暗号は幅1ミリの50万分の一で仮に1ミリの針金を100分の一にして息を吹きかけるだけで切れる、その針金でも遺伝子暗号を記した情報テープより5千倍もない。その後「人の生命設計図の精巧さと、それを極微の世界に書き込んだのは誰か？ 神のような存在を私はサムシング・グレードと私は呼んでいる」 P 4

この講義には文系の学生も来ていて最初の年に100名位その後数年で500名と溢れるほどの盛況となった。

私の後を引き継いだ宗教学の先生が「自分の講義でこれほどまでに学生が反応したことはない」とビックリ！科学のエキサイティングな現場からサムシング・グレート迄行ったところで学生が感動、宗教にも多大な関心を示し始めた、そして感想文ではいろんな面で遺伝子が「ON」になった報告が見られた。

- * 偉い人の話をやたら信用しない
その道の権威と云う人の話を我々は殆ど疑わないが私達科学の研究に携わっている人間はその人の言うこと・考え方を無条件で受け入れることの危険性を十分知っている。アインシュタインの相対性理論迄見直されクローン羊・クローン牛の誕生は何十年も変わることがなかった生物の教科書を書き換える出来事だった。
- * 駄目だと思わない限り可能性は無限にある
大学で重要なポストの企画調査室長に任ぜられた時、企業の経営の舵取りのような仕事で自分は当時やっと研究が軌道に乗り始めた時で研究と大学の管理職との両立は不可能と思われた、先輩や友人に相談しても皆「無理だろう」と。そこで私は思い切って実質的な権限を大幅に委譲し責任だけを全て自分がとる。更に私は「今までの2倍働こう」と。その結果不可能と思われた仕事の両立が可能となり多くの人々の献身的な協力のお陰もあり以前にもまして研究室は活況を呈した。
- * ピンチになったらこう思え！
「あきらめないで一つ二つ自分がやれば、後八つ九つはサムシング・グレートが応援してくれる」と考える事。
- * ライバルとは自分をやる気にしてくれるなり能力を高める切掛けを与えてくれる存在として必要、敵があるのはそれだけ自分の存在が認められているという事。
大きな敵ほど味方にする事を考えよう。
- * いくら努力しても結果が出ない、ドンドン悪くなる時は遺伝子の「ON」「OFF」を考える、人間の能力は、一人ひとりあまり差はない。
仕事は生活の為にするのはレイバー自分の為にすることをワークと呼ぶ、人を指導する立場の人は部下にワークの方で取り組ませるようにすると良い。
- * 自分の身边で同時に起きてくる出来事は一見関連性がないようでも、それが何かのメッセージであることが多い、良くない出来事の場合は心を入れ替えてみると良い。
- * 謙虚な態度を取れるのは真のプライドを大切にしているから。
一人の人間の持つ潜在能力の可能性はほとんど無限といってよい。

{ 第四章 本物は単純で美しい }

- * 高偏差値よりも早起きがいい
3万5千頭の牛の脳下垂体を皮むきしていた時、

手分けしてやっても気が遠くなるような作業でいつ終わるか見当もつかない！
そこで「朝2時間早起きしてやろう」と提案、皆ビックリしていたが、やがて多くの人が朝7時頃に出てきてくれるようになり、作業はグーンとスピードアップして半年で作業は終わった。

世界に沢山ある格上の研究所に先駆けて画期的な成果を上げることが出来たのは早起きが成功の原点だった。

- * 不自然なものを疑ってかかれ
弱肉強食を前提としたダーウインの自然淘汰・適者生存説は偉大ではあるものの全く別の進化論もある。それは「生物はお互いに助け合いながら進化してきた」というもの、つまり人は文明や文化を持つことで初めて他の動物達とお互いに生きていけるということでサムシング・グレートはその知恵を人間だけに与えた。つまり人間は自分がよりよく生きることを考えると同時に地球のことも考えなければならない自然に従わない生き方は如何に文明を発達させようと決して人間を幸せにはしないと。
- * 分からないものは分からないままでいい
私自身の性格は大きな転機に当たって目的に向かって全力を注ぐと同時に結果にこだわらず「天に任せる」両方の気持ちを持つことが出来た、結果として悪い条件の出会いも、素晴らしい結果へと姿を変えることが出来た、これは「大いなる存在に生かされている」という実感を強く持っていたことが大きいと思われる。
- * 人の遺伝子の暗号が解明されても人間には人の生命を作り出す事は出来ない
このことは科学の限界を如実に現わしている。
自然界や生物の働きの法則全体を科学によって分かろうとするのは無理だと。
サムシング・グレートの働きの一部でしか過ぎないと謙虚に認める必要がある。
- * 人間と猿は97%位の遺伝子は共通しているが天と地ほどの開きがあり、これはサムシング・グレートの意図としか思われぬ。

{ 第五章 他人が喜べば自分も楽しくなる }

- * 最後に生き残る人は「譲る心を持った人」最新のコンピュータに「どんな人間が最後に生き残るか」を推測させたところ「力の強い人、自分のことを優先させて考える人、競争に勝ち抜いていく人」等と云う大方の予想を裏切って「譲る心を持った人」だった。
自分の心は「他人の為」献身的に努力しているときに理想的な状態で働く・良い遺伝子が「ON」になる。
- * ガイア仮説～英国生物物理学者のジェームス・ラブロックが唱えた「地球そのものが生きている大きな生命体であり進化を遂げてきたとする」学説これは対立と抗争分断と個別化を進歩や進化の原動力と見做すのではなく、助け合い・譲り合い・分かち合いの三つの「合い」が本当の進化の原動力だとする考え方。 P 6

* サムシング・グレートの想いに辿り着きたい

私は今年1999年で63歳いよいよ大学退官を迎えるにあたり「自分の人生はこれから始まる」

そして真の自己を探求していけばサムシング・グレートの様や働きが一層鮮明に見えてくるのではないかとの希望を持っている。

この真我発見の旅には生命科学に関する知識と精神世界の知恵の両方が必要です、バイオの世界、遺伝子工学の領域で私が先兵となってやってみたい。

自分の欲望ではなく人間はもっと精神的に成長してバランスを取らなければならない、及ばずながらそういうことのお手伝いをしたいと。

以 上